

1. 実況上の着目点

- ① 東シナ海の高気圧が西～東日本に張り出している。一方、東日本太平洋側には気圧の谷が停滞。
- ② 500hPa 5340m以下の寒冷渦に対応する低気圧が沿海州付近を東進。また、500hPa 5520m付近のトラフに対応して低気圧からのびる気圧の谷が北日本を通過中。気圧の谷近傍では、雷を検知し、やや強い雨を解析、メソサイクロンを検出。
- ③ ①の高気圧の南縁で華南～南西諸島に停滞する下層の傾圧帯に向かう下層暖湿気の影響で、沖縄近海では強い雨を解析。



主要じょう乱解説図

- ④ ①～③の低気圧や気圧の谷及び傾圧帯と、①の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなっている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 26日は、1項②の寒冷渦に対応する低気圧がサハリン付近に進み、1項②のトラフと気圧の谷が北～東日本を通過。北日本では27日にかけて、東日本では26日は、500hPa付近に -30°C 以下の寒気が流れ込む。気圧の谷に向かう湿った空気と日中の昇温、上空寒気の影響で、北～東日本では大気の状態が非常に不安定となる。落雷、竜巻などの激しい突風、降ひょう、急な強い雨、天気急変に注意。
- ② 1項①の高気圧は、27日は日本の南から日本の東に移動し、28日は日本のはるか東に中心を移す。
- ③ 1項③の傾圧帯は26日夜までに不明瞭化。27日は、500hPa 5760m付近の正渦度移流に対応して、朝までに華中付近に発生する前線が南西諸島にのびる。28日は、朝までに前線上の種子島・屋久島付近に発生する低気圧が、日本の南に進む。前線に向かう下層暖湿気（850hPa $\theta_e \geq 336\text{K}$ ）の影響で、九州南部と南西諸島では、大気の状態が不安定となり激しい雨や非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷、突風に注意。
- ④ 28日は、500hPa 5400m以下で -30°C 以下の寒気を伴う寒冷渦に対応する低気圧が日本海北部に進んで、低気圧からのびる気圧の谷が東日本日本海側から北日本を通過。上空寒気と低気圧や気圧の谷に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。落雷、突風、降ひょうに注意。
- ⑤ 2項①③④の低気圧や前線及び気圧の谷と2項②の高気圧の間で、気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹いて、波の高くなる所がある。北～東日本と南西諸島では28日にかけて、西日本では26日と28日は、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量（18時からの24時間）：多い所（100mm以上）はない。

- ② 波浪（明日まで）：北海道、伊豆諸島3m。③ 高潮（明日まで）：大潮の時期。西日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。